第４章　　自然環境

那須岳（茶臼岳）（那須町　１月）

那須高原に咲くサクラソウ（那須町　５月）

那珂川中流（茂木町　４月，大瀬橋より）

那珂川下流（ひたちなか市　６月）

1 那珂川の地形区分

那珂川流域の自然環境について,源流～河口を地形的要因によって以下の 6 つの区間に分類し,その特色について述べる。

① 源流区間:源流の那須岳から那須野原扇状地(那須扇状地)の扇頂付近にいたる急勾配の渓谷区間。河床は代表粒径 30cm の巨石で構成されている。源流部の那須連峰，高原山の大部分が日光国立公園に含まれる。

② 扇状地区間：那須野原扇状地と高久丘陵および八溝山塊の間を，扇状地，丘陵を削って流れる箒川合流点までの区間。河床は代表粒径 5～15cm の中・大石で構成される。

③ 丘陵区間:箒川との合流点である那須野原扇状地下流端から喜連川丘陵と八溝山塊および鷲子山塊の間を流れる荒川合流点までの区間。川幅は 150～600m と広く，河床は代表粒径 30mm の砂・礫で構成され，砂州が発達し瀬と淵が連続した区間である。八溝山地と接して流れる那珂川は八溝県立自然公園に含まれる。この区間には八溝山塊を流れる武茂川，高原山を水源とする荒川が合流する。

④ 狭窄区間：八溝山地を横断し，崖地の深い谷の中を流れる新那珂川橋（茂木町）までの区間。河床は代表粒径 25mm の砂・礫であり，砂州が発達し瀬と淵が連続している。両岸は崖地で川へのアクセスは容易ではなく，豊かな自然が多く残され，大部分が那珂川県立自然公園(栃木県)に含まれている。川に近づける場所は夏になると観光簗が設置され,川に入ってアユ釣りを楽しむ人の姿も多く,那珂川を代表する景観となっている。

⑤ 台地・段丘区間：台地と台地の間を流れ，川幅は 200～650m と広く，城里町上泉地先付近までの区間。河床は代表粒径 25mm 砂・礫で構成され，砂州の発達が見られ，瀬と淵が連続している。両岸には主に水田として利用される沖積地が広がり，その背後の河岸段丘や丘陵地との境界に斜面林が見られる。この区間には鷲子山塊を流れる緒川と，鶏足山塊を流れる逆川が合流している。

⑥ 自然堤防区間：那珂台地，東茨城台地を削ってできた河岸段丘の間を流れ，藤井川，桜川と涸沼川を合わせて太平洋に注ぐ区間。川幅は 200～600m 河床は 0.25mm～0.40mm の砂，シルトで構成され，氾濫堆積物による自然堤防が発達している。台地と台地の間には沖積平野が広がり，水戸市をはじめとする市街地が発達している。汽水域である涸沼から那珂川河口部にかけては，大洗県立自然公園に含まれる。

なお,ここでは上記の 6 区間について,①源流区間と②扇状地区間を上流域,③丘陵区間,④狭窄区間および⑤台地・段丘区間を中流域，⑥自然堤防区間を下流域として 3 つにまとめ，上流から順に説明する。

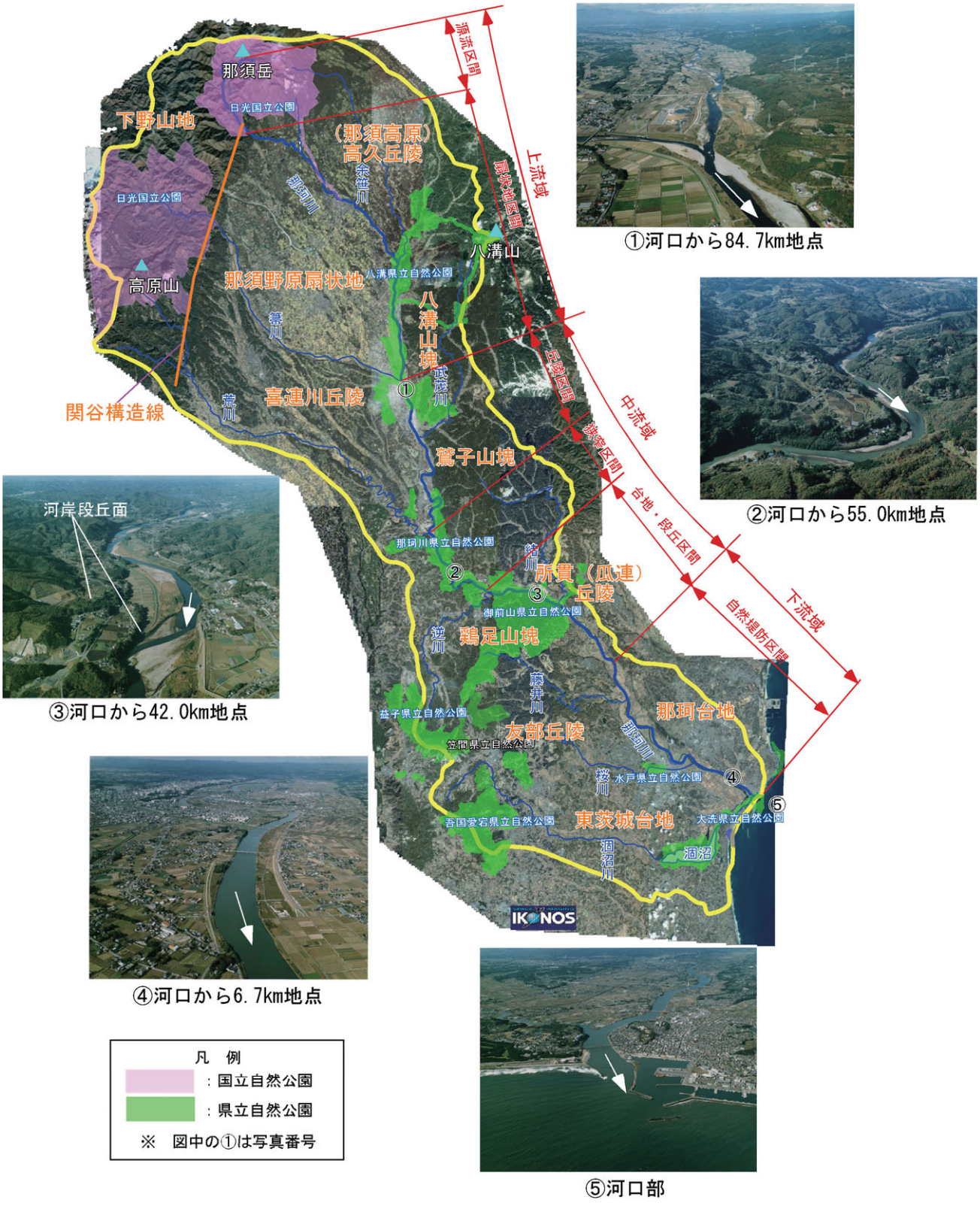

図 4-1　那珂川流域地形図